

第10期第1回府中市美術館運営協議会会議録

1 会議名 第10期第1回府中市美術館運営協議会

2 日 時 平成30年12月15日（土） 午後2時～4時

3 場 所 府中市美術館

4 出席者

(1) 委員（順不同・敬称略）

寺田・江川・谷矢・上村・薩摩・米谷・隠岐・吉田・松林・栗原・松浦

(2) 事務局

藪野館長・相馬副館長・志賀副館長補佐兼学芸係長・尾崎管理係長・武居教育普及担当主査・鎌田企画展示担当主査・古田事務職員

5 議 題

(1) 府中市美術館の概要について

(2) 諮問事項の審議

(3) その他

6 公開・非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 発言内容 以下、□は各委員の発言、■は事務局（ICレコーダー不調のため、概略発言要旨）

(1) 府中市美術館の概要について

□ 高齢者施設は文化を感じられない状況で、子供向けはあるが高齢者向けのものが無い

□ 病院の子供室のインテリアを学生が作成した例があった。

■ 子供と高齢者が一緒にできるものを定着させたい。

(2) 諮問事項の審議

□ なぜ2年毎の目標じゃないのか。今回は大きなスパンでの諮問なのか。

□ マスタープランなど、2年毎の実施プラン。今回は責任のある期。答申の頭出しができれば良い。

□ 基金についての質問。平成28年だけ、歳出に対する歳入の割合が20%オーバーなのは。歳入を上げろと言われないのか。

■ 基金については、平成30年から運営委員からの答申もあり設立されました。今年度は作品を当初と補正で購入し、今後計画的に執行してまいります。

歳出に対する歳入の割合ですが、委員の言われるとおり、歳入の確保については

課題と認識しているところですが、公立の文化施設であるため、広く市民に還元していくことを理解していただいています。

- 運営協議会が、年に2回の開催で足りるのか。
- 皆さんの日程調整を考えると2回が適当ではないか。
- 美術館に対する希望、期待は。
- 美術館のサービスは、来館者の知的好奇心を満たし、感動や心の豊かさを求める欲求に応える努力が必要です。展覧会と所蔵品の質の高い。展覧会がおもしろい。他では得られない美的体験から、精神的な満足や充実した時間を過ごしていただきたいです。また、鑑賞以外の目的で訪れた方も快適に過ごせる、くつろぎや幸せな気分になっていただきたいです。
- 答申は動き出す原動力になる。
- 他の館と同じ利益を追求しない。
- 美術鑑賞教室など、これまでの継続することは大事で、子供が美術館に来れる機会は貴重である。
- 子どもの視点に立った学芸員の解説が良い。
- わが街、ふるさと教育を深めていきたい。
- 資料を充実させるには、基金の額が心もとない。藤田嗣治クラスの絵画を何枚か購入できればよいのだが。20年というスパンを考えれば、先ほどの高齢者施設の話も重要である。
- 答申に基金を「絶やさぬよう」と入れよう。
- 美術館が小さい頃から、もっと身近なものになれば良い。
- 大学生があまり来ない。展覧会の内容は素晴らしいので、美術館独自のホームページを改修し、広報の方法を工夫してほしい。
- 本日は初回ということもあり、自己紹介を兼ねながら、という形を取りましたが、運営協議会の回数も多くないので、委員の皆様には、美術館になるべく多く来ていただいて、来館の際にはいい機会ですから事務室に顔を出したり、あるいは展覧会のイベント時に来たり、というようなことを積極的にしていただければありがたい。それでは、第1回目の協議会はこれで終了します。どうもありがとうございました。